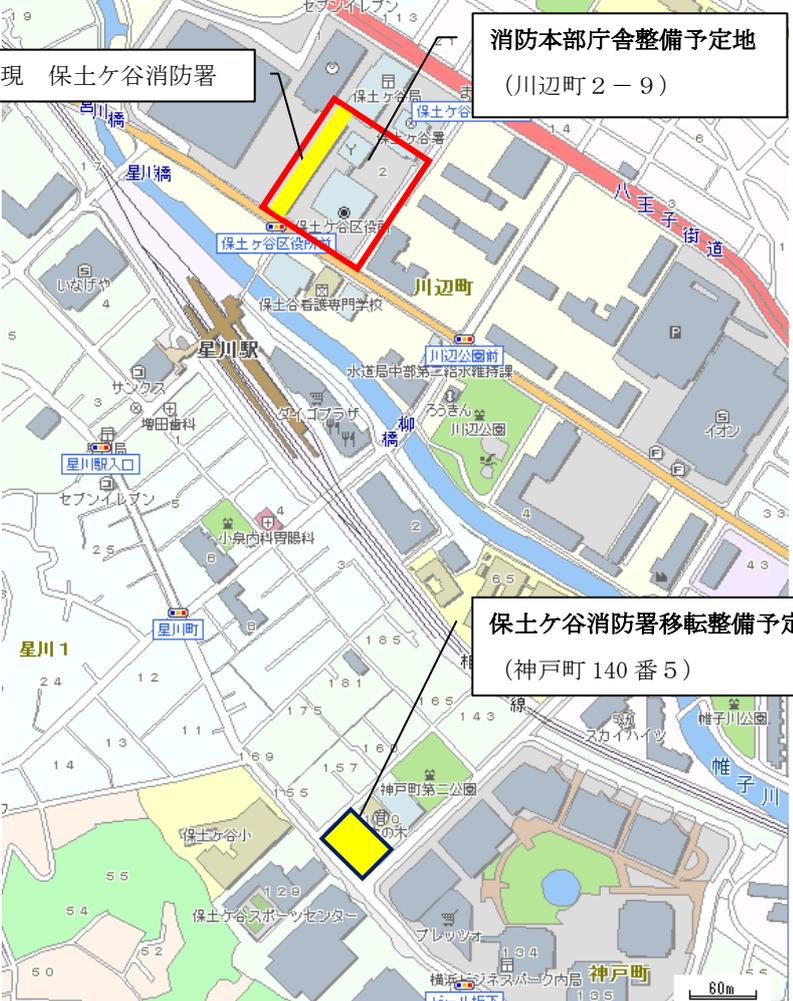


(様式2)

公共事業事前評価調書

事業概要	事業名	【消防—1】消防本部庁舎及び保土ヶ谷消防署整備事業
	場所 (所在地)	消防本部庁舎：横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9 (保土ヶ谷区総合庁舎敷地) 保土ヶ谷消防署：神戸町 140 番 5
	事業目的	「安全安心を実感できる防災都市ヨコハマ」の実現に向け、災害発生時の消防防災活動の中核拠点となる消防本部の機能強化を図るため新たな消防本部庁舎を整備（建替え）します。 あわせて、より安全で円滑な災害出動を行うため、保土ヶ谷消防署を移転整備します。
事業内容	<p>現在、保土ヶ谷区総合庁舎敷地に所在する消防本部(区役所4階～7階及び消防司令センター)及び保土ヶ谷消防署について、消防本部庁舎は、保土ヶ谷区総合庁舎敷地の一部(区役所本館建物及び別館建物が所在する部分を除く)を活用して整備します。また、保土ヶ谷消防署は、消防本部庁舎整備に伴い近隣の市有地(神戸町140番5)へ移転整備します。</p> <p>【案内図:消防本部庁舎整備・保土ヶ谷消防署移転予定地】</p>  <p>The map shows the project area in Yokohama, Kanagawa Prefecture. It highlights the current location of the Fire Department (Fire Department Building) and the Fire Station (Fire Station). The Fire Department Building is located at 2-9 Kawabuchi-cho, and the Fire Station is located at 140番5 Honkoku-cho. The map also shows the surrounding area, including the Sagami River, the Sagami Line, and various landmarks such as the Sagami River Bridge, Sagami Station, and Sagami Park. A scale bar indicates 60 meters.</p>	

		<p>1 整備施設概要</p> <p>(1) 消防本部庁舎 敷地面積:約 3,000 m<sup>2</sup> (保土ケ谷区総合庁舎の敷地の一部を分割して使用する予定) 想定している延床面積:約 15,000 m<sup>2</sup></p> <p>(2) 保土ケ谷消防署 敷地面積:1,946 m<sup>2</sup> 想定している延床面積:約 3,000 m<sup>2</sup> ※今後の検討状況により変更する場合があります。</p>
	事業スケジュール	<p>1 保土ケ谷消防署 平成 28～29 年度 基本設計・実施設計 平成 30～31 年度 工事、竣工</p> <p>2 現 保土ケ谷消防署 平成 30～32 年度 解体設計、解体工事、解体完了</p> <p>3 消防本部庁舎 平成 29～31 年度 基本設計・実施設計 平成 32～36 年度 工事、竣工 ※今後の検討状況により変更する場合があります。</p>
	総事業費	<p>約 100 億円(保土ケ谷消防署移転建設費を含む) その他、消防通信指令システムの更新費(約 50 億円)が必要 ※今後の精査により変更となる場合があります。</p>
	事業の必要性	<p>1 必要性・優先度</p> <p>(1) 消防本部庁舎</p> <p>東日本大震災において、被災地の消防本部では、天井の崩落や通信用アンテナの破損、緊急消防援助隊をはじめとする他機関との調整スペースが不足するなどの事案が発生したことを踏まえ、改めて本市の消防本部庁舎が抱える課題が浮き彫りとなりました。</p> <p>大規模災害をはじめとする発災時の消火、救助など応急活動の中核となる消防本部の機能強化を図るため、新たな消防本部庁舎を整備するものです。</p> <p><b>【現消防本部庁舎が抱える主な課題】</b></p> <p>① 大規模災害時に災害対応の方針決定及び緊急消防援助隊などの関係機関との調整を行うための必要なスペースが十分ではないことや、情報収集機能の中核である司令センターが消防本部と別棟であることがあります。(狭あい化における課題)</p> <p>② 耐震構造基準には適合しているものの、大規模地震発生時に地震のエネルギーが直接、建物に伝わるため、建物内部や指令システムなどの重</p>

要機器が被害を受ける恐れがあります。(機能継続性における課題)

## (2) 保土ヶ谷消防署

新たな本部庁舎の建設に伴い、保土ヶ谷消防署にあっては、安全で円滑な災害出場に必要なスペースを確保できないことが想定されるため、移転・整備する必要があります。

### 【現保土ヶ谷消防署が抱える主な課題】

築45年が経過し老朽化が顕著であり、かつ配置部隊数及び人員・資機材の増加により庁舎が狭隘化しているため、地域の災害活動拠点となる地区本部及び消防団本部を運営するスペースが不足しています。(老朽化・狭あい化における課題)

## 2 上位計画における位置付け

・中期4か年計画 2014～2017(基本政策・施策10・主要取組7) 抜粋  
様々な災害に対する危機対応力の強化

津波や大雪、噴火、大雨等による災害に的確に対応するため、平常時から防災関係機関との連携を強化するなど、「横浜市防災計画」等に基づく取組を着実に推進するとともに、消防本部機能の強化に向けた取組を進めます。

## 3 適地性

### (1) 消防本部庁舎

新たな本部庁舎は、次の条件などを満たす、現在の保土ヶ谷区総合庁舎の敷地内を整備場所としました。

- ・市域全域へのアクセスに優れていること
- ・経費負担が軽減できるよう、市有地であること

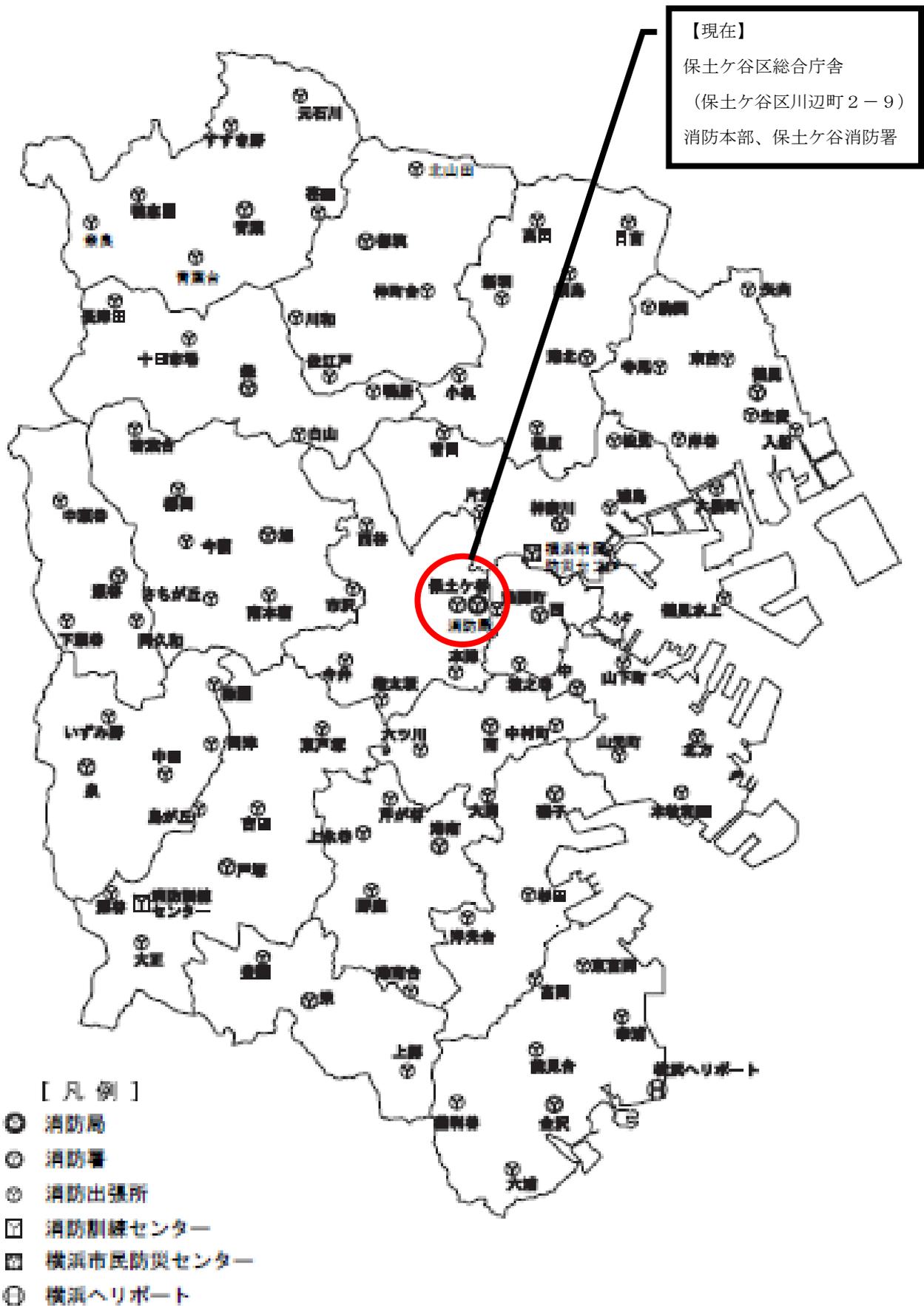
現位置での建替えにより、消防、救急無線の根幹となるアンテナや、災害監視カメラが設置されたランドマークタワーと接続する既存の主要な回線が、継続して活用できます。

### (2) 保土ヶ谷消防署

他の出張所の受持区域に影響せず、署所の配置バランスが良好であり、敷地の3面が道路に接し、十分な幅員(約15m)があるなど、消防署の配置に適しています。

<p>事業の効果 (費用便益分析等)</p>	<p>1 消防本部庁舎</p> <p>(1) 大規模災害にも消防機能を継続発揮できる庁舎</p> <p>発災直後から十分な本部機能の発揮と機能継続が可能となり、先進の指令システムを駆使し、高度な情報処理及び迅速な意思決定ができる諸室のほか、緊急消防援助隊と連携した災害活動を行うための情報提供や調整を行う諸室を設置することで災害対応能力の向上を図ります。</p> <p>機械室等を上階配置とする浸水対策のほか、より高い耐震性を確保するための「免震構造」などを採用することで、重要機器等の安全性を高め、災害発生直後から消防本部機能が継続して十分に発揮できることが期待できます。</p> <p>(2) 安心・信頼を実感できる庁舎</p> <p>「SR」や「司令センター」等の視察をはじめ、火災原因の鑑定を行う「消防科学研究室」を一部公開することにより、市民の皆様身近に「消防」に触れてもらうことで、火災予防等に関する啓発を行うとともに、「生活の安心感」を実感できる機能を持たせます。</p> <p>また、消防団や自主防災組織等との情報共有や集合研修の実施による連携の強化により市民・地域の防災意識を高め、具体的な行動につなげていく効果が期待できます。</p> <p>2 保土ヶ谷消防署</p> <p>大規模災害発生時、消防地区本部とともに消防団本部を運営する諸室を設置することにより、消防団と迅速な連携が図れ、地域拠点としての機能強化が期待できます。また、平時には会議及び研修等に使用し、市民・地域の防災意識を高めるとともに諸室の有効活用を図ります。</p>
<p>環境への配慮</p>	<p>「横浜市の公共建築物における環境配慮基準」に基づき、省エネルギー性能向上や自然エネルギー活用に努め、環境負荷の低減に配慮します。</p>
<p>地域の状況等</p>	<p>本事業の検討の進捗にあわせて、地域の皆様への説明等を行いながら、進めてまいります。</p>
<p>事業手法</p>	<p>公共発注方式によります。</p>
<p>添付資料</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> ・ 無</p>
<p>担当部署</p>	<p>消防局 総務部 施設課 (Tel 3 3 4 - 6 5 7 2)</p>

【位置図（市内全域図）：署所配置図】



## 【新本部庁舎】敷地概要

- ・地名地番 : 神奈川県横浜市保土ヶ谷区川辺町2-9他
- ・用途地域 : 商業地域
- ・敷地面積 : 9,829.45㎡
- ・前面道路幅員 : 南側 約10.5m 東側 約9.5m ※道路台帳
- ・基準建ぺい率 : 100% (80% + 20%) (防火地域内の耐火建築物)
- ・法定容積率 : 400% (39,317.8㎡)
- ・防火地域 : 防火地域
- ・高度地区 : 第7種高度地区 (31mまで)
- ・日影規制 : なし(但し異なる用途地域が近接)
- ・その他の地区 : 星川・天王町・保土ヶ谷駅周辺地区

### ①保土ヶ谷区総合庁舎

- ・竣工 : 昭和44(1969)年10月
- ・改修 : 平成12(2000)年3月
- ・建築面積 : 3,037.175㎡ (消防署舎) ※S44計画通知
- ・延床面積 : 14,647.655㎡ (消防署舎) ※S44計画通知
- ・階数 : 地下1階、地上7階
- ・高さ : 軒高 30.6m、最高高さ 30.99m
- ・構造種別 : 地下部 RC、地上部RC 一部SRC
- ※消防本部占用面積 : 約4,500㎡

### ②消防署

- ・竣工 : 昭和44(1969)年10月
- ・建築面積 : 約1,300㎡
- ・延床面積 : 約2,300㎡
- ・階数 : 地上2階
- ・高さ : 最高高さ 9.7m
- ・構造種別 : 地上部RC 一部SRC
- ※一部消防本部機能あり (約1,200㎡)

### ③消防司令センター

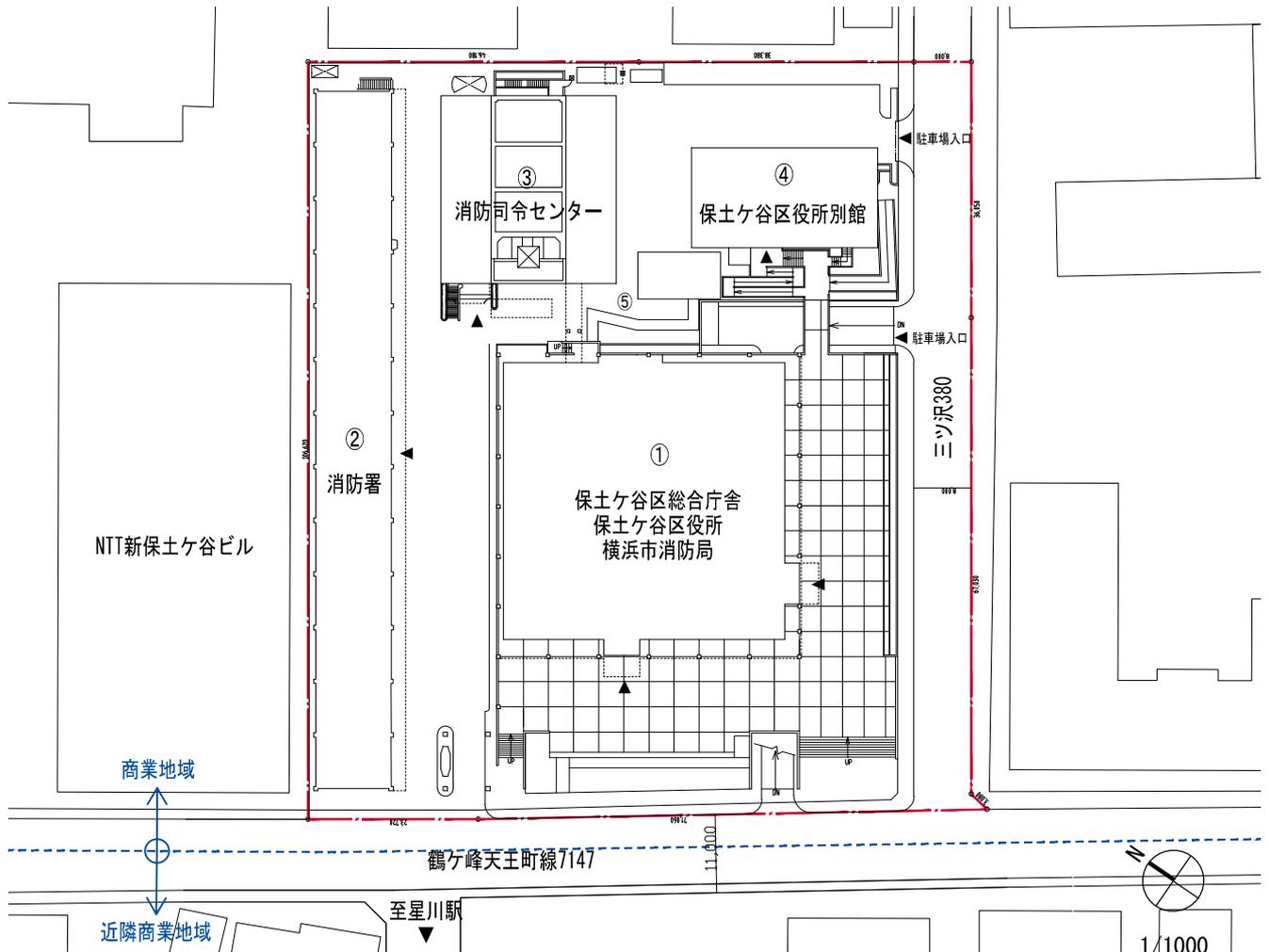
- ・竣工 : 昭和61年(1986)10月
- ・建築面積 : 671.98㎡ ※S60計画通知
- ・延床面積 : 2,935.4㎡ ※S60計画通知
- ・階数 : 地上5階
- ・高さ : 最高高さ 28.05m
- ・構造種別 : SRC造

### ④保土ヶ谷区役所別館

- ・竣工 : 平成12年(2000)3月
- ・建築面積 : 381.21㎡ ※H11計画通知
- ・延床面積 : 750.38㎡ ※H11計画通知
- ・階数 : 地上3階
- ・高さ : 軒高 11.47m、最高高さ 12.0m
- ・構造種別 : S/RC造

### ⑤分棟への通路

- ・竣工 : 平成12年(2000)3月
- ・建築面積 : 49.60㎡ ※H12計画通知
- ・延床面積 : 49.60㎡ ※H12計画通知
- ・階数 : 地上1階
- ・高さ : 軒高 3.923m、最高高さ 4.082m
- ・構造種別 : S/RC造



## 【新保土ヶ谷区消防署】敷地概要

- ・地名地番 : 横浜市保土ヶ谷区神戸町140-5
- ・用途地域 : 近隣商業地域・第1種住居地域
- ・敷地面積 : 1,946.23㎡ (整備基本方針より)
- ・前面道路幅員 : 南西側 約18.5m 南東側 約16.5m 北西側 約4.5m (道路台帳より)
- ・基準建ぺい率 : 82.8% (1,612.17㎡)
- ・基準容積率 : 264.1% (5,138.04㎡)
- ・防火地域 : 準防火地域
- ・高度地区 : 第6種高度地区 (20mまで) ・第4種高度地区 (20mまで+斜線制限)
- ・日影規制 : 第1種住居地域: 高さが10mを超える建築物 (5~10m : 4時間、10m以上 : 2.5時間)
- ・その他の地区 : 第1種住居地域: 周辺地区又は自動車ふくそう地区  
保土ヶ谷神戸町地区地区計画、星川・天王町・保土ヶ谷駅周辺地区

